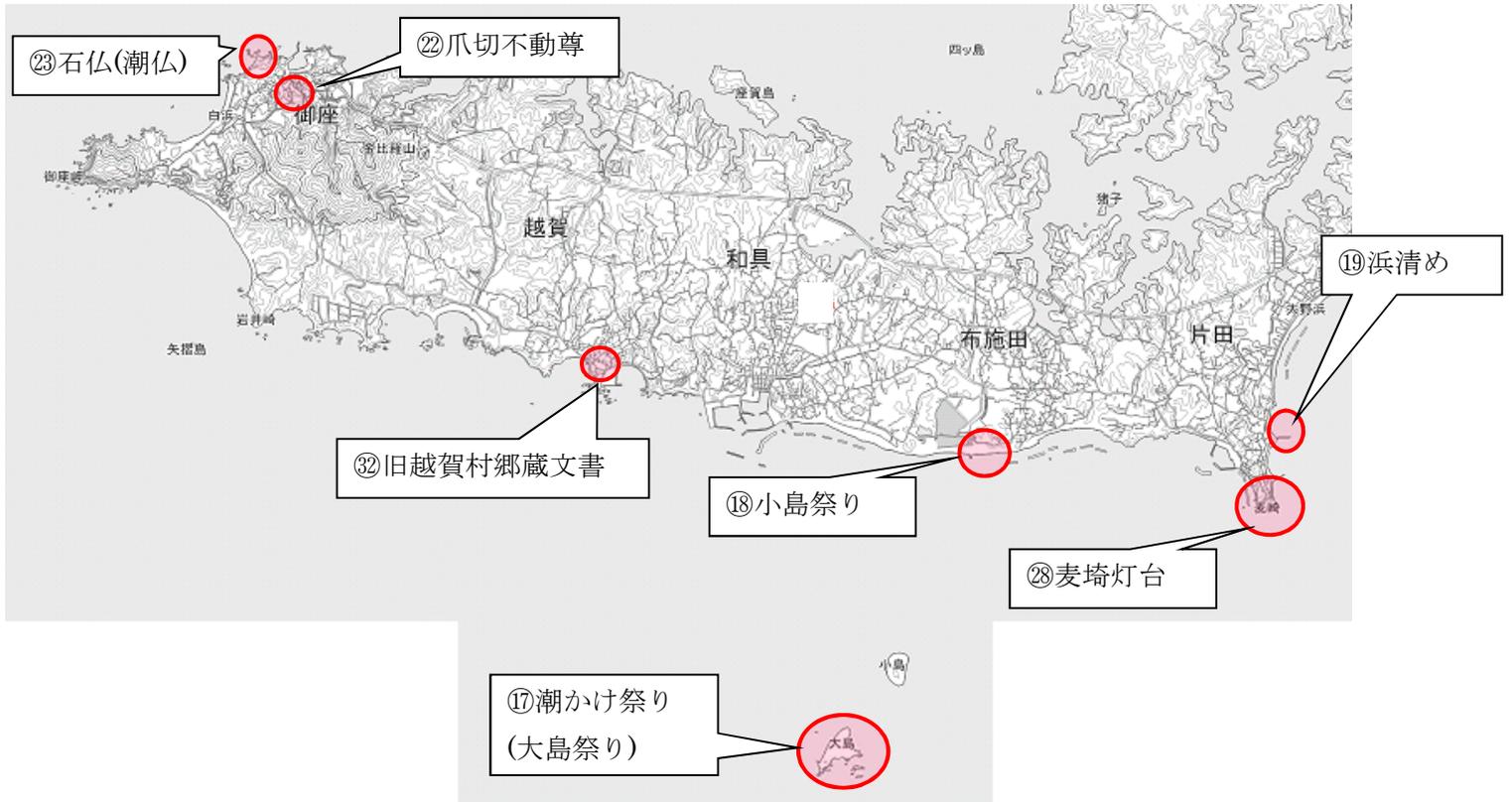
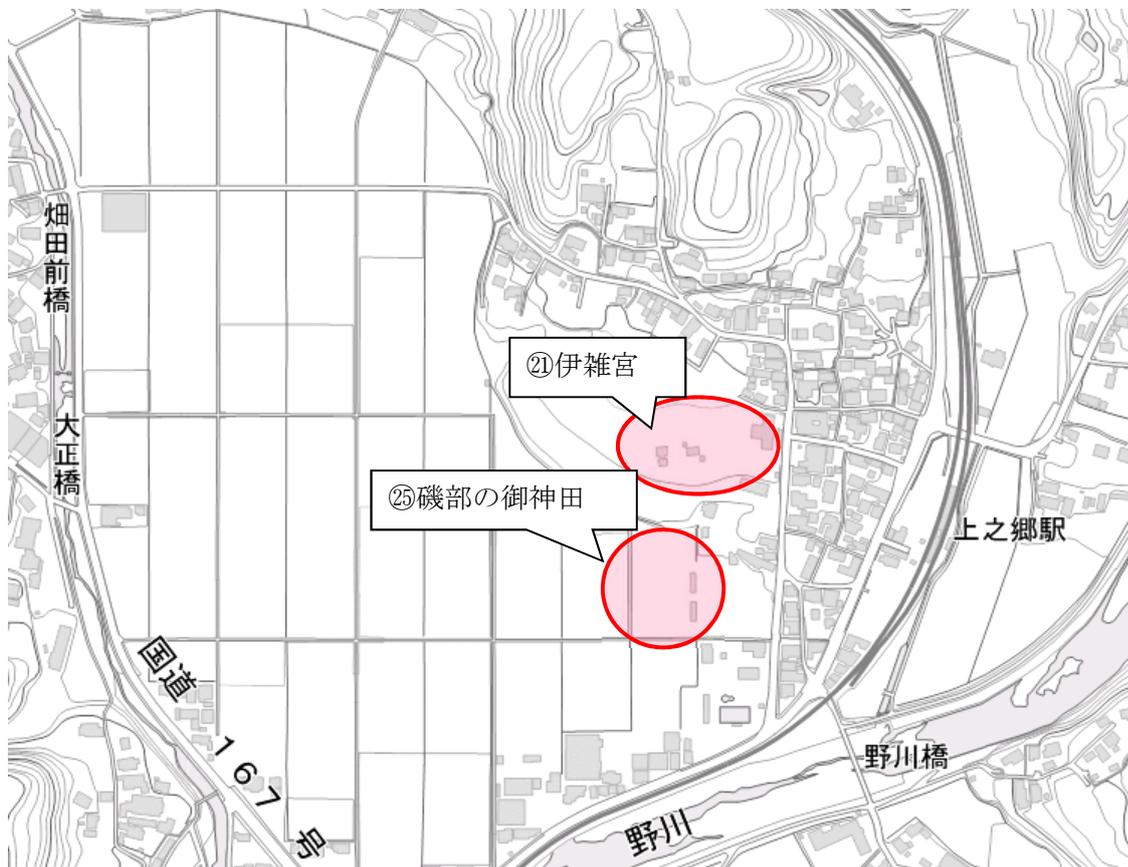


① 申請者	◎三重県鳥羽市 三重県志摩市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	あまにであえるまちとばしま ～すもぐりりょうにいきるじょせいたち		
海女 (A m a) に出逢えるまち 鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>豊かな海産物に恵まれた鳥羽・志摩は、全国の約半数の海女が活躍する日本一の「海女に出逢えるまち」である。この地域で、女性が素潜りでアワビ、サザエや海藻を獲る海女漁の始まりは約2,000年前まで遡り、世界でも日本と韓国のみ希少な漁法である。海女が獲った海産物は伊勢神宮に「神饌 (神様に捧げる供物)」として奉納され続けており、海女が中心となる祭も継承されているなど、海女ならではの風習や信仰などの「海女文化」が今も色濃く息づいている。鳥羽・志摩をめぐれば、海女文化を「五感」で体感でき、元気な海女からパワーをもらえるに違いない。</p>			
			海女小屋体験での海女との触れ合い
アワビをとる海女	海女の祭 (しろんご祭)		
「海上安全祈願の聖地」青峯山正福寺			

分布図①【志摩町】



分布図②【磯部町上之郷地区】



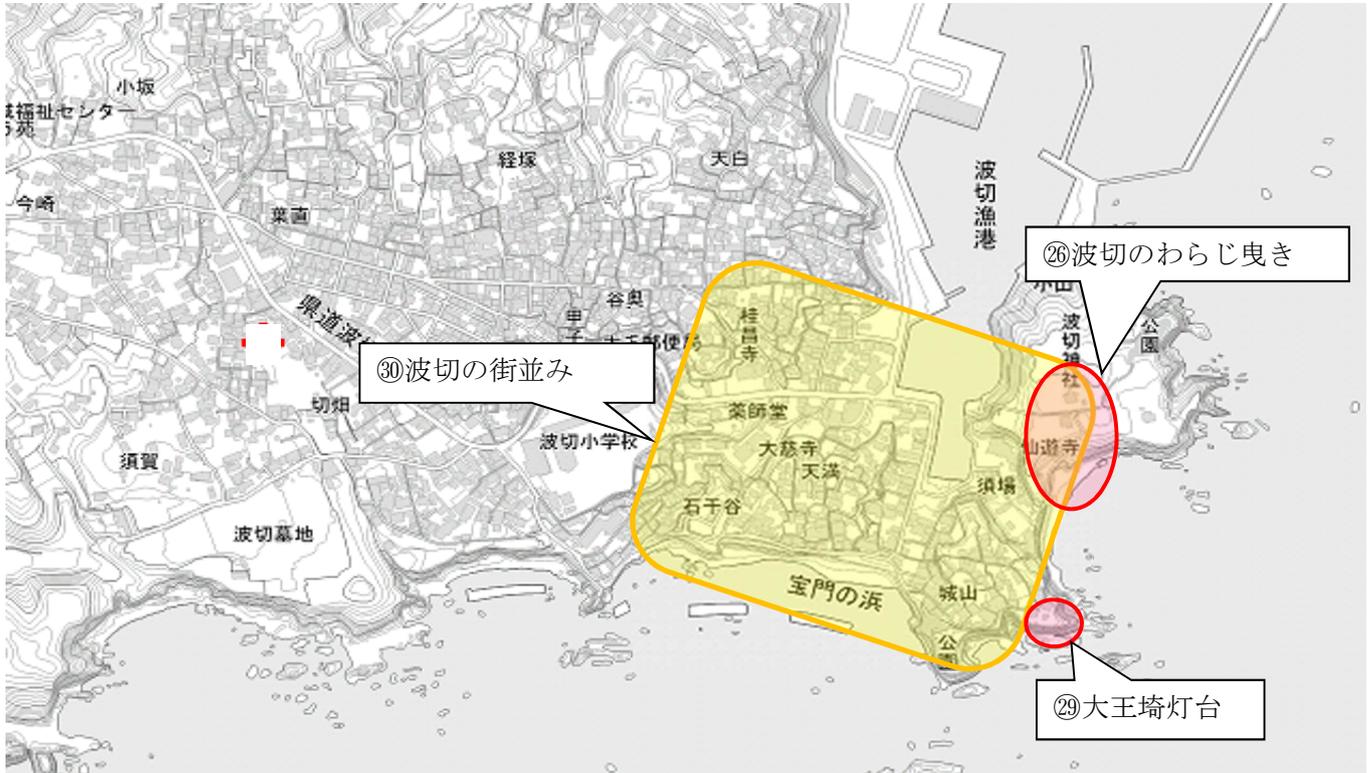
分布図③【阿児町安乗地区】



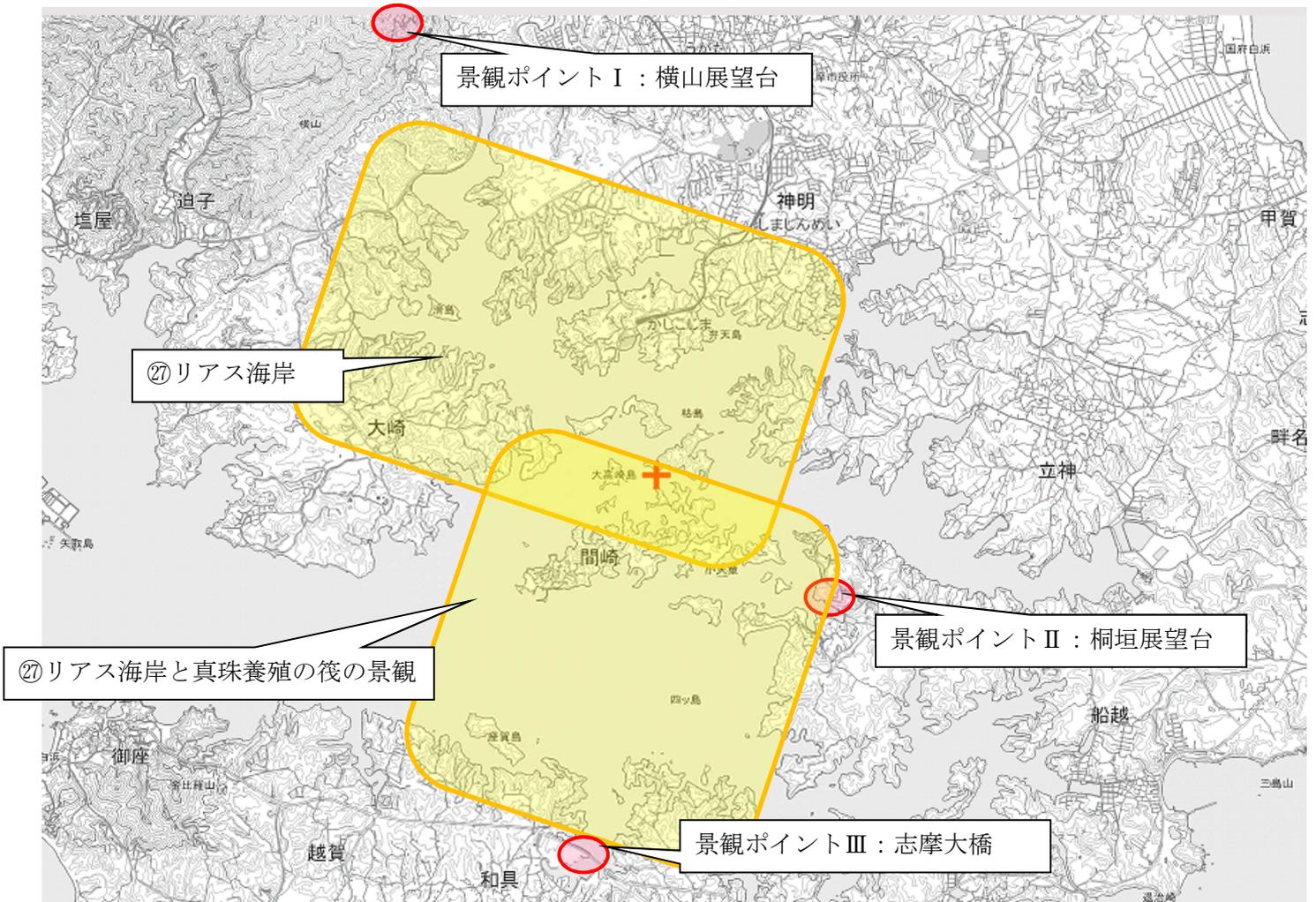
分布図④【阿児町志島地区】



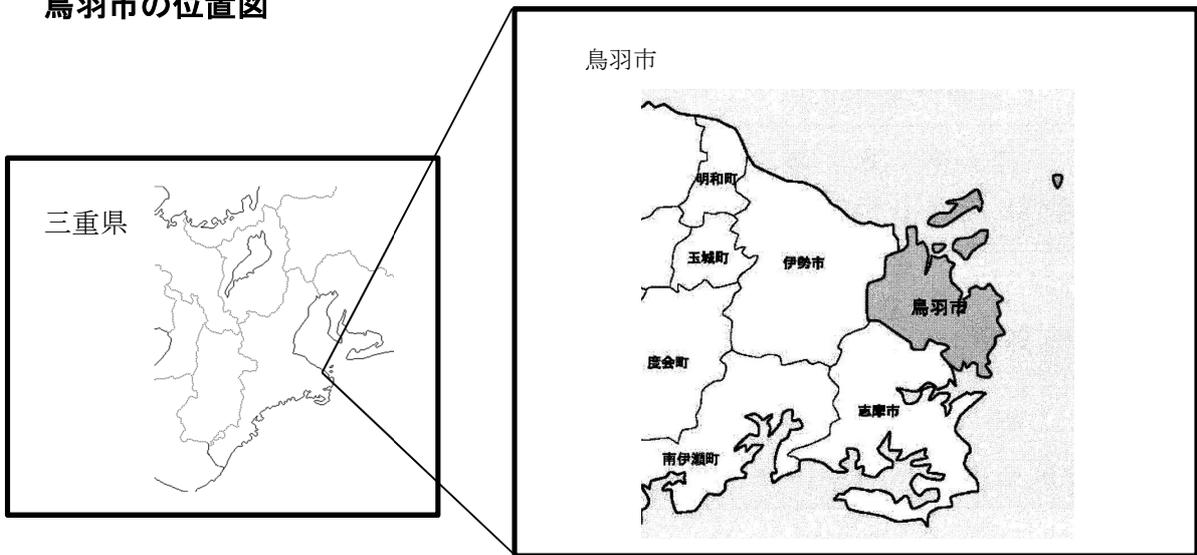
分布図⑤【大王町波切地区】



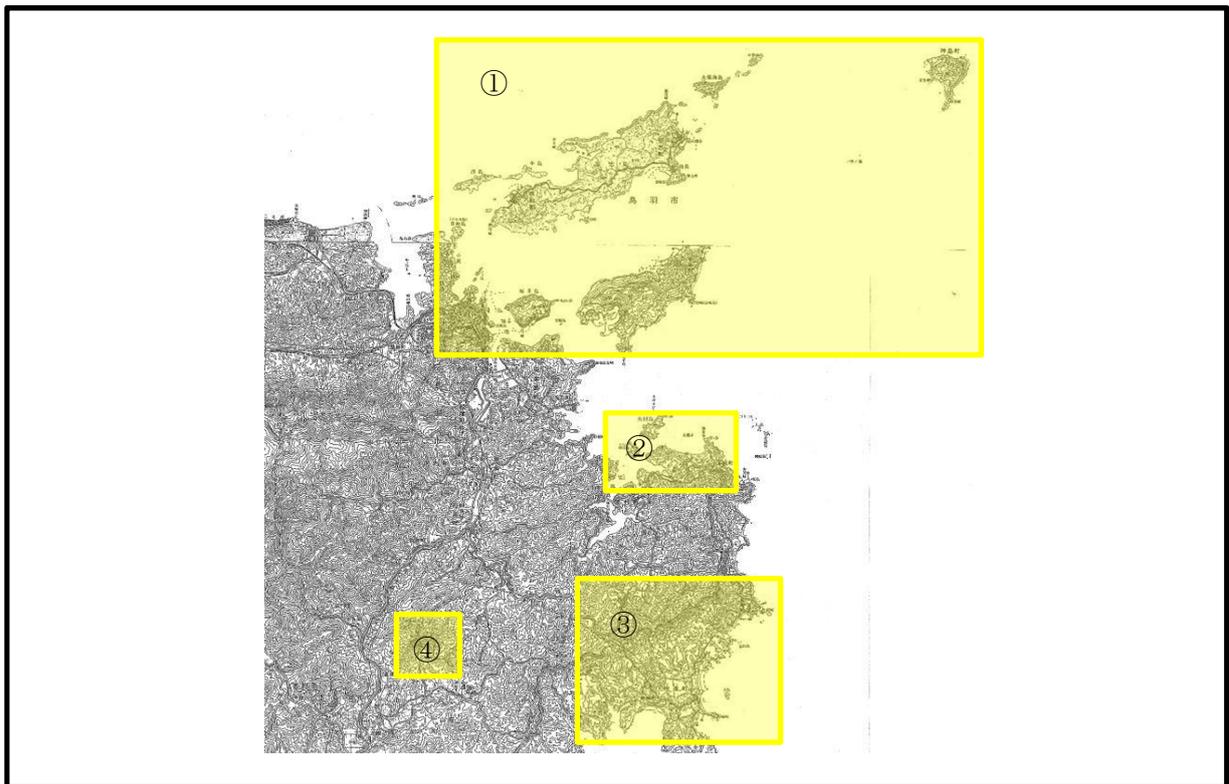
広域地図(②⑦リアス海岸と真珠養殖の筏の景観および景観ポイント)



鳥羽市の位置図



構成文化財の位置図 (①離島地区・②鏡浦地区・③南鳥羽地区・④青峯山)

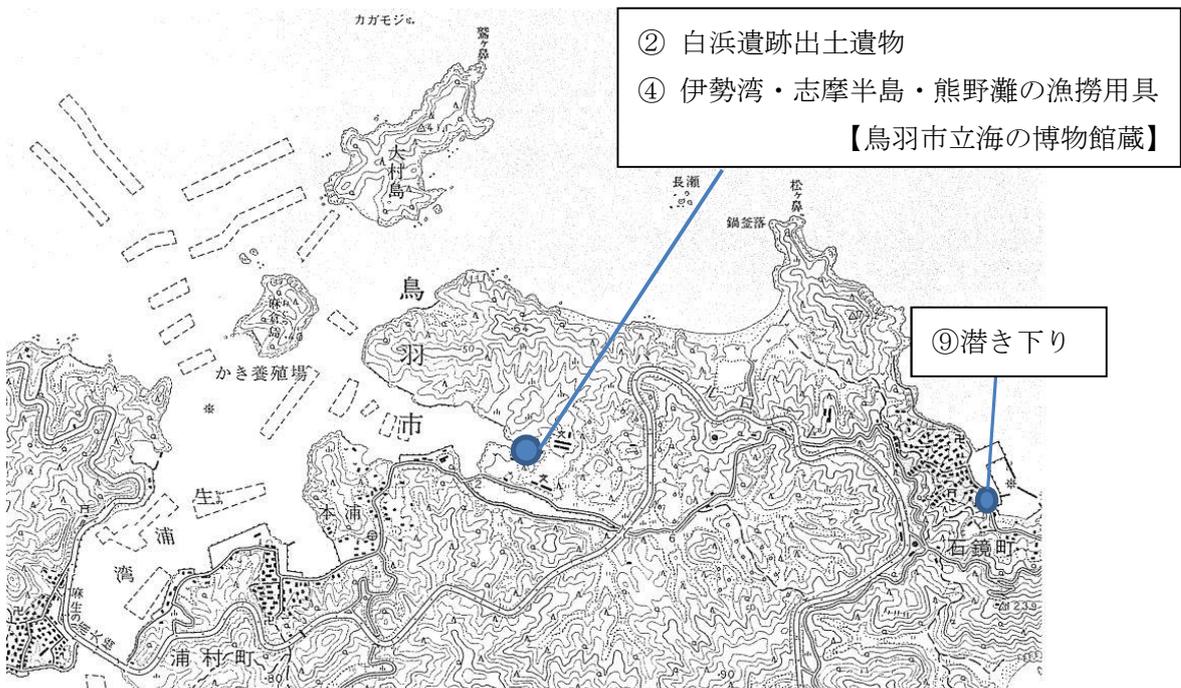


分布図①【離島地区】

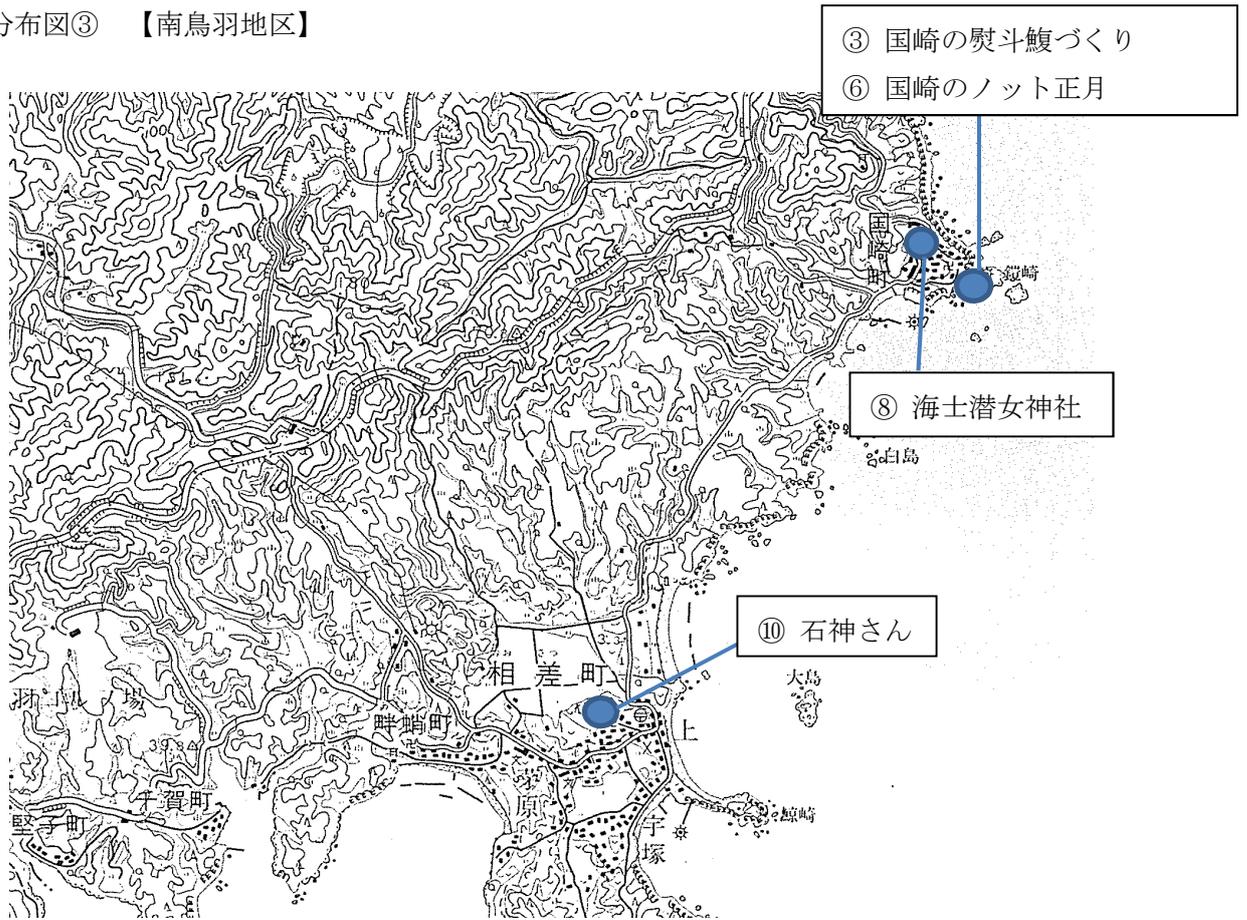
① 鳥羽・志摩の海女漁の技術 (海岸部一帯)



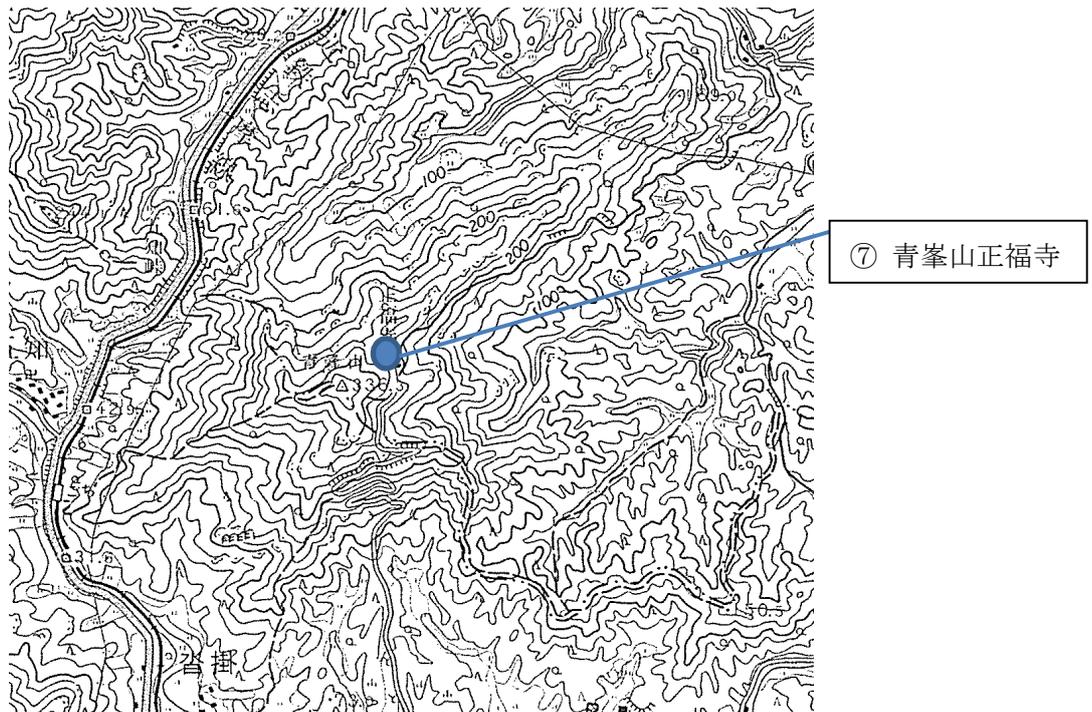
分布図②【鏡浦地区】



分布図③ 【南鳥羽地区】



分布図 4 【青峰山】



ストーリー

■ 海女に出逢えるまち 鳥羽・志摩

鳥羽・志摩の沿岸部は、複雑に入り組むリアス海岸からなり、恵まれた地形と豊かな藻場が形成された生態系を背景に、女性が素潜りでアワビなどを獲る「海女漁」が持続的に営まれている。自身の呼吸を限界までこらえ、そのわずかな間に、岩礁にいるアワビやサザエなどの獲物を獲る「50秒の勝負」にかけている。



海女漁は、日本と韓国の一部にしかみられず、国内でも総数の約半分にあたる750名ほどが活躍する日本一の「海女に出逢えるまち」である。この地域の海女は、海女が獲ったアワビを伊勢神宮へ奉納する伝統や、海女が中心的な役割を果たす祭行事や呪符などの信仰が現在でも継承されている点で、他の海女のいる地域とは異なる特徴がある。また、三島由紀夫の小説「潮騒」には、神島の海女の初江が主人公として描かれており、昔から鳥羽・志摩が海女のまちとして、認識されてきたことがわかる。

「海女」という、素潜り漁に生きる彼女たちに出逢えるまち、鳥羽・志摩を訪ねてみよう。

■ 神々が愛したアワビ～伝説の海女「おべん」

鳥羽・志摩の海女漁の歴史は約2,000年前の弥生時代に遡り、鳥羽市の白浜遺跡では大量のアワビの貝殻やアワビオコシが出土している。平安時代の「延喜式」には「志摩の潜女（海女）」の記事があり、潜女が獲ったアワビや海藻類が都に納められていたことが分かる。また、鳥羽市国崎で海女が獲ったアワビは毎年、「熨斗鮔」という干物に加工され伊勢神宮に奉納され続けている。熨斗鮔の奉納の由来は、鎌倉時代の成立とされる「倭姫命世記」に記されており、伊勢神宮に天照大神を祀った倭姫命が、神様の食べ物を求めて国崎を訪れたところ、「おべん」という海女からアワビをもらい、大変美味であったことから、この地をアワビ奉納の地と定めたとされる。



熨斗鮔づくり

海女が獲ったアワビや伊勢エビなどの海産物は神饌として伊勢神宮に奉納されており、神々を魅了した「特別」な価値をもつものである。海女小屋体験施設などで現役の海女と触れ合いながらそれらを食することは最高の贅沢といえる。



熨斗鮔

■ 海女に受け継がれる信仰とまつり

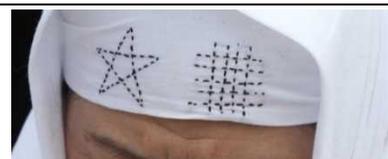
海女漁は、命の危険と隣り合わせであるため、鳥羽・志摩には、海女をはじめとして海と共に生活する海の民の信仰を集める神社や仏閣などが数多くあり、これらの聖地を訪ねることで海女文化の一端に触れることができる。代表的なものには鳥羽市の青峯山正福寺や伊勢神宮の別宮である志摩市の伊雑宮がある。

特に青峯山正福寺は、鳥羽・志摩のみならず、伊勢湾周辺の漁業に携わる人々の厚い信仰を集める「海上安全祈願の聖地」である。正福寺の大門には海に関する寺らしく、龍などの彫刻に混じり「海老」や「魚」が隠れて彫刻されているほか、本堂の回廊には遭難者が奉納した嵐の中で祈る船乗たちの姿を描いた絵馬も掛けられており、探してみるのも面白い。



正福寺大門の魚の彫刻

海女が使う磯テヌグイや磯ノミをみると、貝紫染めや黒糸の刺繍で星形の印（セーマン）と格子状の印（ドーマン）がみられるが、これも魔除けのためで、漁の安全を祈る信仰が今も生き続けている一例である。地中海沿岸で3,600年ほど前から使用されている貝から紫を取る貝紫染めの技術は、鳥羽市の海の博物館で体験が可能だ。



セーマン・ドーマン

また、鳥羽・志摩では、全国的にも珍しい豊漁や海上安全を祈る海女の祭りが各地で受け継がれている。鳥羽市菅島町で7月に行われる「しろんご祭り」は、昔ながらの白い磯着を着た海女たちが一斉に潜り、つがい（雄・雌一対）のアワビを獲って白髭神社に奉納し、大漁と海上安全を祈願する祭であり、海女漁と祭りの様子を間近で見ることができる。

■ 「五感」で感じる海女

鳥羽・志摩地域の沿岸部や離島の漁村を訪ねると、海女を「五感」で感じることができる。港周辺を歩くと、漁の前後に体を温め、憩う「海女小屋」が立ち並ぶ風景や、船に乗って漁場に向かう姿、獲った獲物を仕分けする姿、漁港で出荷する姿など、様々な海女の姿を目にする。海女が暮らす鳥羽市答志島の路地裏では、豊漁と海上安全のまじないである地元神社の「まる八」印が墨で各家に書かれている。そして、細い路地裏を抜けて海岸に出ると、海女が潜る美しい海岸が広がる。眺望を求めて灯台に登れば、眼下には、顔を出してはまた沈む、海女たちの姿を見ることができる。また、秋冬には、海女のおやつである「きんこいも」を干す風景が楽しめる。海の博物館では約6万点にも及ぶ膨大な収蔵資料で海女の道具や、漁村の歴史・民俗資料を展示・紹介している。

先に触れた景観（視覚）だけでなく、海藻などを干す匂い（臭覚）も感じられる。志摩市の麦埼灯台では、海底から浮き上がった海女が呼吸を整えるために息を吐き出す「ヒュー、ヒュッ」という「磯笛」がよく聞こえる。また、海女小屋や路地から聞こえる海女たちの大きな声も胸を高鳴らせてくれる（聴覚）。市場で活きたアワビや伊勢海老に触れ（触覚）、海女小屋体験施設では、海女から海女漁や海女文化についての話を聞きながら、海女が獲ったアワビなどの海産物や海女自家製のあられを堪能できる（味覚）。また、海女とともに潜る、海女漁体験では五感全体で海女の世界を感じることも可能だ。

鳥羽・志摩の海女漁村は他の漁村に比べて総じて明るい。それは女性が生き生きと暮らしているからである。この地域をめぐれば、古くから自然を敬い、海とともに生活してきた海女の生活と信仰が「海女文化」として、今も息づいていることが体感でき、元気な海女に出逢えば、彼女たちからパワーをもらえるに違いない。



戸板に描かれた「まる八」印



海藻を干す海女



海女と触れ合い

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	鳥羽・志摩の海女漁の技術	国重要無形民俗	三重県鳥羽市及び志摩市に伝承されている女性たちによる素潜り漁技術。当地の海女漁は、特に伊勢神宮との関係性も含め、古来より継承され、従事者が全国で最も多い地域である。この地域の沿岸部では、各地で海女のいる風景をみることができる。	鳥羽市 志摩市
②	白浜遺跡出土遺物	未指定 (考古資料)	古来からこの地域が豊かな海産物に恵まれ、潜水漁が行われるなど、後の御食国となる一因を感じられる資料。縄文晩期から古墳時代にかけての遺跡で、多くのアワビの貝殻やアワビオコシと考えられる骨角器が出土しており、潜水漁がおこなわれていたことを示す遺跡である。	鳥羽市
③	国崎の熨斗鰻づくり	県無形民俗	神饌に関する文化財である。志摩国は「御食国」として古くから、朝廷から重要視されてきた地域であり、倭姫命が国崎の潜女が奉納したアワビが美味であったため、国崎を御贄所にしたという伝承をもつ。現在でも国崎では、伝統的技法で調製された鰻(アワビ) (身取鰻、玉貫鰻) を伊勢神宮に調進している。	鳥羽市
④	伊勢湾・志摩半島・熊野灘の漁撈用具	国指定重要有形民俗	海女の道具 233 点をはじめ、三重県の漁村から収集された漁撈用具や漁村の民俗資料など 6,879 点がある。県内の漁業文化・歴史を知るうえで重要な民俗資料群である。なお、収蔵する海の博物館では、海女についての詳しく紹介した展示が行われているほか、建物は建築家内藤廣氏によるモダンなデザインである。	鳥羽市
⑤	しろんご祭	市指定無形民俗	各地で受け継がれる信仰と多様なまつりの一つ。菅島で例年7月11日の直近の土曜日に行われる。しろんご浜に磯着姿の海女が集まり、普段は禁漁区の浜に一斉に潜り、雌雄一対のアワビをとる。最初にとれた雌雄のアワビは「まねきアワビ」と言われ、白髭神社に奉納され、海上安全・豊漁を願い、祈りを捧げる。	鳥羽市

⑥	くさき 国崎のノット正月 <small>しよんがつ</small>	国記録選択 (無形民俗)	各地で受け継がれる信仰と多様なまつり。1月17日に行われる正月神 <small>わらぶね</small> を藁船に乗せて送る行事。海女を含めた女性が中心となって行われる点でも珍しい。	鳥羽市
⑦	あおみねさんしょうふくじ 青峯山正福寺	未指定 (史跡) 大門は市指定 (建造物)	江戸時代、廻船業が繁栄を遂げる中で、「青峯に参ると風雨の難を免れる」という「青峯信仰」が広がり、現在も海女をはじめとして伊勢湾周辺の漁業に関わる人々の厚い信仰を得ている聖地である。天保13年築の大門には立川流の彫刻が使われ、「かくれええび」と呼ばれる海老や魚の彫刻など海にまつわる彫刻も含む。海難者が奉納した絵馬もおもしろい。	鳥羽市
⑧	あまかづきめじんじや 海士潜女神社	未指定 (史跡)	あまどひめ 倭命姫にアワビを献上したと伝えられる伝説の海女「おべん」を祀る。年初めの漁が始まる前に海女達は必ずここに参る。	鳥羽市
⑨	かづお 潜き下り	未指定 (無形民俗)	新しい年の海女漁が始まる前に、八 <small>はち</small> 大龍神 <small>だいらゆうしん</small> に操業安全と大漁を祈る行事。八大龍神の掛軸を飾り、一對のアワビが供えられ、海女が餅と小石を供えて祈る。	鳥羽市
⑩	石神さん	未指定 (無形民俗)	信仰の場のひとつ。相差町の氏神である神明神社の参道に祀られた石神さんは、女神とされ、海女に信仰されてきた。女性の願い事なら一つ叶えてくれるといわれ、多くの女性参拝者が訪れる。	鳥羽市
⑪	かみしまやっしるじんじや 神島八代神社	未指定 (史跡)	海女は文芸の世界でも描かれている。三島由紀夫の代表作の一つである小説「潮騒」には、登場人物「初江」は海女として描かれており、小説に登場する場所も現存している。八代神社はその一つで、物語の最後に新治と初江がこの場所で結婚の報告をするほか、眺めが最も美しい場所の一つであると紹介している。	鳥羽市

⑫	かんてきしょう 監的硝	未指定 (史跡)	三島由紀夫の小説「潮騒」で、海女である「初江」が、嵐の日に新次とお互いの気持ちを確かめ合うクライマックスの場面の舞台である。昭和4年に陸軍の大砲着弾点確認のために建てられた。ここからは伊良湖岬を一望できる絶景ポイントである。	鳥羽市
⑬	ニワの浜	未指定 (名勝) (※カルスト 地形は市指 定)	海女は文芸の世界でも描かれている。三島由紀夫の代表作の一つである小説「潮騒」には、登場人物「初江」は海女として描かれており、アワビとり競争をこの場面で描かれた場所である。海女が漁を行うスポットであるほか、浜を見下ろすように石灰岩でできたカルスト地形が露出している。	鳥羽市
⑭	とうししま 答志島の細い路地裏	未指定 (文化的景 観)	海女の住む離島の漁村風景。迷路のように入り組む路地で、じんじろ車と呼ばれる手押し車が活躍している。各家には、家内安全と大漁を祈願するため、八幡祭で持ち帰った炭で「まるはち」が書かれた戸板を見ることができる。	鳥羽市
⑮	志摩半島の生産用具及び 関連資料	国登録	志摩半島の漁村から収集された漁の道具や真珠養殖などの資料が含まれ、海女の道具も含まれている。	志摩市
⑯	伊勢神宮へのアワビ奉納	未指定 (無形民俗)	志摩国は「御食国」として古くから、朝廷から重要視されてきた地域であり、現在でも伊勢神宮へ貢進しているアワビをはじめとする海産物には海女が大きな役割を果たしている。	志摩市
⑰	潮かけ祭り (大島祭り)	未指定 (無形民俗)	各地で受け継がれる信仰と多様なまつり。鎌倉時代から続くといわれている祭りで、海女や漁師が海の安全と大漁を祈願した後、船同士が海水をかけあうことから「潮かけ祭り」と呼ばれる。	志摩市
⑱	小島祭り	未指定 (無形民俗)	各地で受け継がれる信仰と多様なまつり。海女が大漁と海上安全を祈り、わらで作った御舟を志摩町の布施田中の浜から海へ流す祭り。海女はこの日、日待ちといって漁を休む。	志摩市

⑱	浜清め	未指定 (無形民俗)	各地で受け継がれる信仰と多様なまつり。昔、麦崎の竜宮井戸と呼ばれる磯で、9人の若い海女が潜っていたが、どうした訳か戻ってこなかった。それで、片田の海女は旧暦6月13日を「竜宮日待ち」として、一日漁を休みとし、今も、供養の祀りを行っている。 海の安全と大漁、海で亡くなった海女の冥福を祈る神事。	志摩市
⑳	いしぎょう 石経おらし	未指定 (無形民俗)	小石に般若心経の文字を書いて海に沈め、海上安全などを祈る行事。 海女が浜から海に向かい、海上安全と豊漁を祈って石経を投げる。	志摩市
㉑	いざわのみや 伊雑宮	未指定 (史跡)	志摩地域で受け継がれる信仰の場である。志摩市磯部町に所在する伊勢神宮の別宮。 天照大御神の御魂をお祀りし「いぞうぐう」とも呼ばれる。古くから「遥宮」として崇敬を集め、地元の人々によって海の幸、山の幸の豊穰が祈られてきた。	志摩市
㉒	つめきりふどうそん 爪切不動尊	未指定 (史跡)	弘法大師が自らの爪で刻んだという不動明王が祀られ、海上安全、大漁を願う海女や漁師らの信仰を集めている。	志摩市
㉓	いしぼとけ 石仏(潮仏)	未指定 (史跡)	御座港の一角に潮の中に立つ仏様がある。下半身の病や安産祈願にご利益があるといわれ、海女の信仰が厚く、お参りする姿がみられる。	志摩市
㉔	あのり にんぎょうしばい 安乗の人形芝居	国重要無形民俗	各地で受け継がれる信仰と多様なまつり。安乗地区を中心とした有志による三人遣いの人形芝居。元禄時代に始まり、大正末期に中断したが、昭和25年に復活した。毎年、9月15・16日に行われる。地元には戦国武将の九鬼嘉隆が、文禄の役での海上安全と勝利を祈願して、その成功を祝して人形芝居の実施を許可したという伝承が残っている。また、1月2日に舞い納められる式三番は大漁を祈願するものである。海の安全と密接に結びついた人形芝居は海女たちの娯楽として楽しまれているとともに、信仰を集めている。	志摩市

②⑤	いそべ おみた 磯部の御神田	国重要無形民俗	各地で受け継がれる信仰と多様なまつり。毎年 6 月 24 日に、磯部町の 9 地区が 7 年ごとの輪番で実施する。漁業者を中心とした裸男が、航海の安全や豊漁を願い大団扇をつけた忌竹(いみだけ)を奪い合う竹取り、田楽にあわせ伝統的な衣装で行う田植え、伊雑宮まで唄をうたい進む踊り込みなどが行われる。 「七本鮫の磯部さん参り」という言い伝えで漁師が誤って 7 匹のうち 1 匹の鮫を殺してしまった伝承からこの日は「ゴサイ」と呼ばれ、海女たちのが漁に出るのはタブーとされ、参拝する習慣が残っている。	志摩市
②⑥	なきり ひ 波切のわらじ曳き	県無形民俗	各地で受け継がれる信仰と多様なまつり。9 月の申の日に行われる。稚児の踊りとともに太鼓、笛の音にあわせ祭文が読誦された後、大王島の方角に稚児の手で 2m 余り大わらじが曳かれる。その後、大わらじは若者に担がれて、須場の浜から海に流される。海の安全と大漁を祈願する神事で、海女たちの信仰も厚い。	志摩市
②⑦	リアス海岸と真珠養殖の筏の景観	未指定(名勝)	複雑な海岸線に真珠筏が浮かぶ美しい風景は志摩半島を象徴する景観である。明治から昭和 30 年代まで海女が養殖に使うアコヤ貝の採取は海女が行っていた。志摩半島の沿岸のリアス海岸では、海女漁が行われている。	志摩市
②⑧	むぎぎきとうだい 麦崎灯台	未指定(名勝)	昭和 50 年(1975)に建てられ、志摩半島の最南端に位置する。海から自分の位置をとらえなくてはならない海女たちにとって、陸上の重要なランドマークとなっている。灯台周辺では美しい景観とともに、海女の磯笛が聞こえやすい場所である。	志摩市
②⑨	だいおうきまとうだい 大王崎灯台	国登録	リアス海岸の大王崎に昭和 2 年(1927)に建てられた。総高 23m で、扇形に配した列柱で付属舎バルコニーを支え、入口には古典主義的デザインを施す特徴的な外観である。海から自分の位置をとらえなくてはならない海女たちにとって、陸上の重要なランドマークとなっている。参観灯台となっており、昇ることができ、天候が良ければ海女漁の様子を見学できる。	志摩市

③⑩	波切の町並み	未指定 (文化的景観)	海女たちが暮らす漁村風景。狭い石畳の坂道が続き、海からの強風を防ぐために高い石垣や防風林で家並を囲むのが波切集落の特徴である。江戸時代のみごとな石垣も残されている。昭和初期には波切の石工が全国各地に赴き石垣造りをおこなった。石垣の間を縫うように進む原動機付自転車に乗った海女たちの姿を見ることができる。その町並みは大王埼灯台とともに、画家たちが風景画を描く人気のスポットとなっている。漁港から灯台にいたる坂道には、干物屋や土産物屋が立ち並ぶ。	志摩市
③⑪	あのりさきとうだい 安乗埼灯台	国登録	リアス海岸の安乗崎にあり、昭和 23 年(1948)に木造の灯台から建替えられた現在の灯台は、総高 16m、白色の鉄筋コンクリート造で円筒形の灯室、角柱形の灯塔、方形の付属舎で構成されている。装飾要素を排した幾何学的構成を特徴とする建造物で、岬の歴史的景観に寄与している。海から自分の位置をとらえなくてはならない海女たちにとって、陸上の重要なランドマークとなっている。昇ることができ、天候が良ければ海女漁の様子や灯台の脇を抜けて海岸へと出漁する海女たちの姿を見ることができる。	志摩市
③⑫	旧越賀村郷蔵文書	未指定 (古文書)	海女の歴史について知ることのできる文化財である。 志摩市志摩町越賀が越賀村であったころの、江戸時代から近代の多数の文書が含まれる。当時、海女が西日本の各地および朝鮮半島に出稼ぎに行ったことや当時の海女の実態を記した資料を含んでいる。漁の磯場を記載した地図や村の土地利用、地震の記録なども含んだ、近世以降の志摩地域の歴史を伝える重要な記録である。	志摩市

③③	ドーマン・セーマン	未指定 (無形民俗)	海女が頭に巻く磯手拭いには、星形の印（セーマン）と格子状の印（ドーマン）が貝紫で染めたり、刺繍されている。これは、海女達が危険から身を守るためのまじないである。陰陽道と関係するといわれ、セーマンは安倍清明、ドーマンは芦屋道満の名に由来するといわれている。	鳥羽市 志摩市
----	-----------	---------------	---	------------

⑮志摩半島の生産用具及び関連資料



⑩小島祭り (浜祭り)



⑯伊勢神宮へのアワビ奉納



⑲浜清め



⑰潮かけ祭り (大島祭り)



⑳ 石経おらし



⑳伊雑宮



㉕磯部の御神田



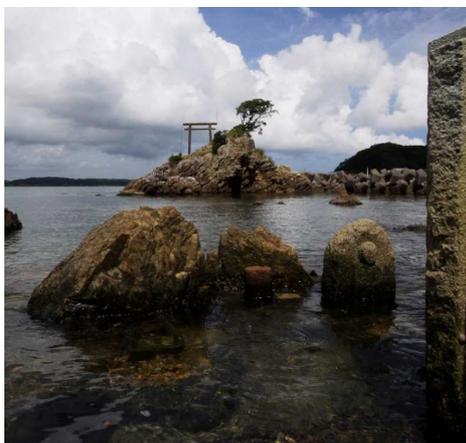
㉑爪切不動尊



㉖波切のわらじ曳き



㉒石仏 (潮仏)



㉗リアス海岸と真珠養殖の筏の景観



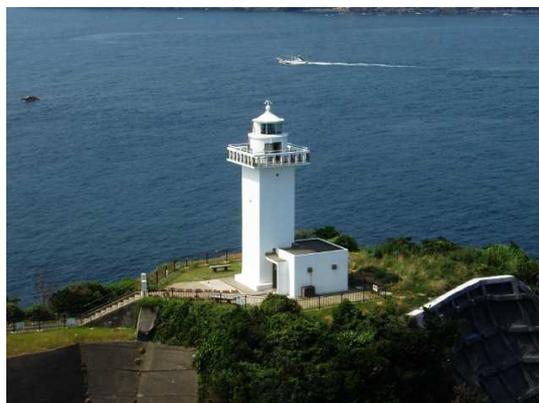
㉔安乗の人形芝居



⑳ 麦埼灯台



㉑ 安乗埼灯台



㉒ 大王埼灯台



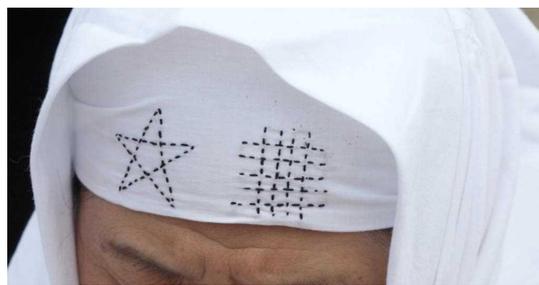
㉓ 旧越賀村郷蔵文書



㉔ 波切の町並み



㉕ ドーマン・セーマン



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
73	海女（Ama）に出逢えるまち鳥羽・志摩

(1) 将来像（ビジョン）

海女漁は、古来より脈々と受け継がれている持続可能な漁業で、二千年以上にわたり伊勢神宮の神事に欠かせない鮫（あわび）を奉納する使命を担うなど歴史文化でもあり、特に当地域では、全国で最も多くの海女が現役で活躍していることで広く認知されている。

海女漁については、アワビやサザエの稚貝の放流や藻場の再生事業等を漁業関係者・研究機関・行政・観光関係の団体と協力して継続し、漁獲量の維持に取り組み、漁の保護・継承がされている。

一方で海女漁以外の収入源確保策の一つとして、海女小屋体験施設や海女漁体験などの海女とのふれあい体験を充実させ、海女の後継者が少しずつ増えている。

そして、鳥羽志摩地域の様々な観光資源の一つの大きな柱の一つとして日本遺産「海女に出逢えるまち」のPRを対外的に行い、観光客が増加し、生業としての海女と海女の観光面での振興を両立し、海女漁の文化を次世代へ継承している。

海女文化を核として、地域の活性化に結び付け、鳥羽志摩地域ならではの好循環社会を実現させることが我々の将来ビジョンである。そして、地域振興に留まらず、自然と協調したライフスタイルとして、その価値の周知と普及に取り組む。

海女文化を核とした 鳥羽志摩ならではの好循環社会の実現



来訪者

- ・伊勢志摩の豊かな海にまつわる歴史文化を知っていただくとともに、アワビをはじめ様々な海産物を食していただき、重要な要素である海女文化についても理解が深まっている。
- ・海女がとった地元の海産物を食し、宿泊することで、地域経済に寄与している。
- ・「海女に出逢える」コンテンツである海女小屋体験施設と海女漁体験など海女と触れ合い、もてなしを体験できる多様なコンテンツが充実し、観光客が元気な海女からパワーを得ている。
- ・日本遺産の海女を紹介するガイド施設である鳥羽市立海の博物館や志摩市歴史民俗資料館などの文化的施設や店舗、更に各構成文化財においてサイン看板・多言語化の整備等を進め、海女の歴史・漁の内容・信仰・水産資源保護意識の先進性などを来訪者に分かりやすく紹介する環境となっている。

地域住民

- ・日本遺産についての普及啓発の取り組みを進め、多くの市民の認知度が向上し、海女文化への理解が進み、事業への協力者となるプレイヤーが増えている。
- ・日本遺産の海女文化についてのストーリーに対する認知度・理解度が向上し、日本遺産であることに市民が誇りを持ち、発信者として紹介できる。
- ・子どもたちにも海女の歴史文化的な価値や日本遺産への認知度を高め、郷土愛が醸成され、海女になりたいと思う子ども達が増えている。

海女漁従事者

- ・海女自身が素潜り漁という生業に対し誇りを持ち、活動を継続している。
- ・多くの海女が、漁以外の新たな収入源として観光面での事業に協力している。
- ・海女の素潜り漁への関心が高まるとともに、海女後継者の受け入れスキームが整い、若い世代が「海女になりたい」と感じて、新規の海女が増えている。
- ・水産資源の管理について、藻場の育成やアワビ稚貝の放流などを研究機関や行政・観光業者などとも連携して取り組んでいる。

行政・民間事業者

- ・海女漁は生業でありながら文化財でもあり、観光活用と海女漁保護を両立させるため、活用面では海女漁・海女小屋体験施設、海女ガイドなどの体験コンテンツを充実し、「海女に出逢えるまち」を体現する一方、海女漁に支障が出ないように、水産資源が多い漁場では密漁対策として見学を規制するなど、観光活用と海女漁の保護とのバランスを図り、両立させている。
- ・地域 DMO や行政を中心に官民が連携して、マスメディアとも連携し、情報共有・分析・戦略検討を行う体制が確立し、事業を実施している。
- ・民間事業者による、日本遺産海女を活用した様々な商品や観光商品が提供されている。
- ・「あま活」（海女ブランドの認定事業）の推進により、海女関連の商品開発が促進され、民間連携が強化されるとともに、経済効果が高まっている。
- ・海女の採った海藻「あまもん」の販売拡大、協賛会社による自動販売機の売上金の一部

が寄付されることで持続的な財源が確保されている。

- ・海女に魅力を感じる若い世代の参入機会が広がり、後継者が育っている。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：日本遺産の拠点施設でもある鳥羽市立海の博物館の入館者数（人）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	26,056	23,910	27,367	30,200	31,800	33,400
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	入館者数は約5%ごとの増加を目標値とした。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－B：海女に出逢える体験ツアーの参加者数（人）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	34,013	42,968	45,628	46,000	46,500	47,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	観光による体験ツアーの参加者数を指標として、鳥羽市・志摩市の海女小屋・海女漁体験などを対象に把握する。目標値は約1%の増加を目標とした。（宿泊客数の目標を参考）					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：日本遺産についての市民の認知度（%）

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	—	79	55	60	70	80
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	地域内で実施される催し等でアンケート調査を行い、海女文化が日本遺産の認定を受けていることについての認知度。目標値を毎年80%とした。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③－A：海女の情報発信拠点施設である鳥羽市立海の博物館の個人消費額（円）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	1,059	1,146	1,390	1,210	1,250	1,290
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	これまでの実績を踏まえ、有料入場者数一人当たりの個人消費額の目標値を年40円アップする想定で設定した。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が適切に保全・継承されている割合（％）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	100	100	100	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財が棄損・滅失しておらず、祭り等も継承されている割合を指標とする。適切な管理と活用・継承が行われている状況を目指し、目標値はすべて100%に設定した。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の宿泊客数（人）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	2,664,058	2,889,201	2,936,618	2,981,141	3,027,004	3,073,484
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	鳥羽市・志摩市の観光客の宿泊者数。目標値は、鳥羽市が毎年2%増、志摩市は毎年1%増で設定した。					

※実績数値のうち2022は、コロナの影響を受けた指標もある。

(3) 地域活性化のための取組の概要
◎課題と今後の方針
課題① 海女漁の持続性確保と後継者対策
海女漁は、遺跡の出土品などから約二千年の歴史を有するとされ、素潜りによる手を使った採取という原初的な形態で脈々と受け継がれてきた持続性の高い漁法であり、その生業を文化として認定している。一方、近年は漁場環境の変化による影響を受け、資源減少や漁獲収入の不安定化により、海女の減少と後継者不足が進み、結果として海女漁そのものの縮小が課題となっている。
このような状況のなか、水産資源については、現在アワビやサザエの稚貝放流や藻場の再生事業等を漁業関係者・研究機関・行政・観光関係団体と協力して継続している。今のと

ころ漁獲量増大までの顕著な効果は得られていないが、これらの取り組みを継続しつつ、漁獲量の維持を図り、漁の保護・継承を目指す。

後継者対策では、これまで閉鎖的であった漁村や海女に、地域おこし協力隊の制度等を活用して都会の海女志望者を直接的に受け入れることでテストケースが成功し、地域外の人々の参入機会が広がってきている。その結果、移住者が海女になるケースや地元の若手女性が海女を始めるケースなど、多様な海女への入り口が形成されつつある。この兆しから、2024年度には若手海女を中心とした「海女レンジャープロジェクト」が設立された。海女は先天的な適性への依存度が高く、一般的な技術教育プログラムの提供には限界がある。そのため、素潜り能力と海女文化への共感を備えた仲間づくりを土台に、今と未来の世代の価値観に対応した新しい海女像の提案し、「後継者育成」ではなく「後継者の開拓」を目指す。

課題② 海女文化を核とした観光振興の段階的発展

日本遺産に認定されている海女文化を活用した観光振興による地域活性化は、現状の取組を踏まえ段階的発展を見据える。

2000年頃から、地域では民間によるエコツーリズムの取組が始まり、海女文化活用の具体的事例が生まれてきた。特に、海女漁以外の収入源確保策として、海女小屋体験施設や海女漁体験等、海女とのふれあい体験が民間事業者によりビジネスモデルとして確立されている。これらの経緯を踏まえ、漁業と観光の連携を明確にし、その相乗効果を高める。あわせて、新たなニーズに対応可能となる持続可能な受入体制を整備し、次なるコンテンツ創出と商品開発を進める。

課題③ 民間事業者と連携した実装力の高い推進体制の確立

日本遺産関連事業は海女振興協議会を実施主体として展開されてきたが、推進の中心は事務局を担う行政に偏っており、海女文化を活用する民間事業者とは、面的連携の不足や、責任ある関わり方などに関する課題があり、民間現場の実態を戦略に生かし切れていなかった。

今後は、日本遺産ワーキンググループにおいて、地域DMOである相模海女文化運営協議会・鳥羽市観光協会・志摩市観光協会や東海水産科学協会に加え、新たに伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会など、海女文化の観光振興に関わる団体と連携し、事業検討や情報共有を推進する。

民間事業者では各種関係団体と連携し、海女文化などの地域資源の活用から、参加しやすい体験づくり、自然体験の方針策定など、地域横断と分野別の取組を組み合わせ推進している。今後は、この体制を生かして活用の多様化とレギュレーションの検討、体験観光の現場実装を進め、発展的な戦略を実行できる事業者プラットフォームとして機能させていく。

◎目指す成果

●民間事業者と連携した協議会の推進体制の構築

日本遺産の海女文化を活かした観光事業は、日本遺産事業ワーキンググループで検討を

進める。構成員は、地域 DMO として海女を活かした観光振興の実績を有する相差海女文化運営協議会や鳥羽市観光協会、志摩市観光協会に加え、民間団体として東海水産科学協会、伊勢志摩ツーリズム、伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会等が参画し、民間事業者との連携による地域のマネジメント体制の構築を進める。

●海女に出逢えるコンテンツの充実

海女小屋体験施設や海女漁体験ツアーなどが行われているものの、観光客には「どこに行けば海女に逢えるのか」についてはわかりにくいため、各地域で行われている海女に出逢えるコンテンツを集約した広報冊子を作成し、情報発信を強化し、海女に出逢える機会を増やしていく。「海女に出逢えるまち」のタイトルに謳っている海女と直接接触れ合い、海女のおもてなしで、地元の幸を食する海女小屋体験施設や海女との交流を楽しむ海女漁体験・見学ツアー、海女トークなどのコンテンツは好評であり、今後も内容のブラッシュアップや商品数の充実に努めるとともに、受入れ体制の整備も図っていく。

●外国人観光客の獲得を目指した PR 強化

鳥羽志摩地域では、日本文化に関心が高く、ヨーロッパにおける文化・トレンドの発信地の一つであるフランスのほか、香港や台湾、シンガポールの外国人観光客をターゲットにしており、引き続き、フランスへはトップセールスを実施し、パリ市内にある旅行会社へのセールスや講演会開催により、海女文化発信および誘客促進を行っていくほか、世界各国の方々が乗船するクルーズ船の誘致も引き続き行っていく。東アジア、東南アジアについては、団体ツアー獲得のために国内外の旅行会社・ランドオペレーター等へのセールスの実施。各組織視察アテンドも実施（旅行会社の他、国内外インフルエンサー、メディア等）していく。

●海女ブランド認定の強化

鳥羽市観光協会を中心に、海女ブランド「あま活」の認定事業を推進させ、相差海女文化運営協議会などと海女に関連する商品開発やブランド化を進めるほか、各民間の連携が強化され、各商品の売り上げを伸ばし経済効果を高めていく。

●日本国内での PR 活動の継続と教育旅行の誘致

海女に関わりの深い伊勢神宮の式年遷宮が 2033 年に控えており、インバウンドだけでなく、国内観光客も誘致していくため、日本遺産の海女をはじめ、海に関わる多様な歴史文化、豊かな海産物を対外的に PR するため、引き続きプロモーション事業を行っていく。

地域内には海に関する研究・展示を行う研究施設や観光施設が集積しており、この特性を活かした「学びの旅」といったテーマ性をもたせ、日本遺産と連動させた PR を行い、教育旅行や海洋学会などの誘致等を目指していく。

●海女漁の振興

海女漁では、生産の場となる藻場の減少により、漁の存続が危惧されているため、漁場環境の変化への対策を実施する。

・海女や漁業者に加え、市・県・大学・その他関係機関が連携し、漁場環境把握のためのモニタリングを実施し、その上で食害対策や海藻種苗の投入など、藻場の維持・再生に向けた取り組みを進めていく。

・活動実施のため、観光収入の循環、民間資金の導入を検討するとともに、市や国の補助金を活用した事業も推進していく。

●海女の後継者対策

海女の後継者対策としては、収入の確保及び所得の向上が重要となる。

・海女漁の主要漁獲物であるアワビは、資源回復を図るため、民間資金などの獲得による稚貝放流個数をさらに増やしてくとともに、効果的な種苗放流手法の検討を進める。

・アワビ以外で、漁場特性に応じた有用資源の管理や保護・増殖について、大学などの研究機関と連携して取り組みを進める。

・若い世代の海女が地域を超えて海女の魅力を伝えるネットワークづくりを行っている。素潜り能力と海女文化への共感力を持ち合わせた仲間づくりから、今や未来の世代の価値観に対応した新しい海女のあり方を発信することで、後継者の開拓を目指す。

・観光との連携を通じて「海女文化のブランドの価値向上」を図り、海女漁以外でも複数の収入が確保できる「海女の複業」に繋げる。

●地域資源として有効活用

水産資源が豊富な区域、または藻場の再生等により資源の維持が見込まれる区域については、海女漁の漁獲量の増大に向けた取組を推進する。一方、水産資源が乏しい区域、藻場の再生が困難な区域であっても、陸上から海女漁を容易に見学できる区域等においては、海女漁見学などの観光コンテンツの充実を図るなど、地域全体として、バランスの取った資源の有効活用につなげる。

(4) 実施体制

日本遺産事業に関しては、海女振興協議会で行う事業のほか、各構成員が予算を確保して行う事業がある。今後、日本遺産の認知度の向上と、情報共有を図るため、観光戦略については、地域 DM0、行政・関係団体、民間事業者等の構成員が集まる「日本遺産事業ワーキンググループ」で議論していく。

地域プロデューサーとしては、鳥羽市立海の博物館の指定管理者であり、漁協や海女との繋がりが深い、東海水産科学協会の石原真伊氏、観光面では、伊勢志摩エコツーリズム推進協議会が担い、日本遺産として海女文化を体感できるコンテンツの充実や PR、収益事業の検討などを行っていく。

協議体制について

●日本遺産サミット等の催しへの参加、パンフレット印刷・看板整備などの普及啓発事業、進捗確認については、海女振興協議会事務局（鳥羽市・志摩市）を中心に実施する。

●協議会の下に観光関係団体で構成する日本遺産事業ワーキンググループを置き、日本遺産を活かした観光振興事業については、この会議内で事業の検討・情報共有を行い、協議会にも共有をしていく。

実施体制

●協議会の一部構成員のほか、新たに地域 DM0 である相差海女文化運営協議会や伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会、有限会社兵吉屋、伊勢志摩ツーリズムなどが加わり、海女関係の観光振興事業を行っている団体と連携することで、事業の検討や情報共有を実施していく。

●漁港を活用した海女小屋体験施設は、相差海女文化運営協議会等の公益性が高い団体がを行い、ガイド技術が必要な海女小屋を含めた海女文化スポットをめぐるツアーや安全管理

技術が必要な海女漁体験などは、**各民間の観光業者が海女と連携して実施**していく。

●日本遺産の事業調整、普及啓発事業は、**海女振興協議会**を中心に実施。

●日本遺産を活かしたマーケティング調査や情報発信事業は**地域DMO 鳥羽市観光協会・志摩市観光協会**を中心に実施。

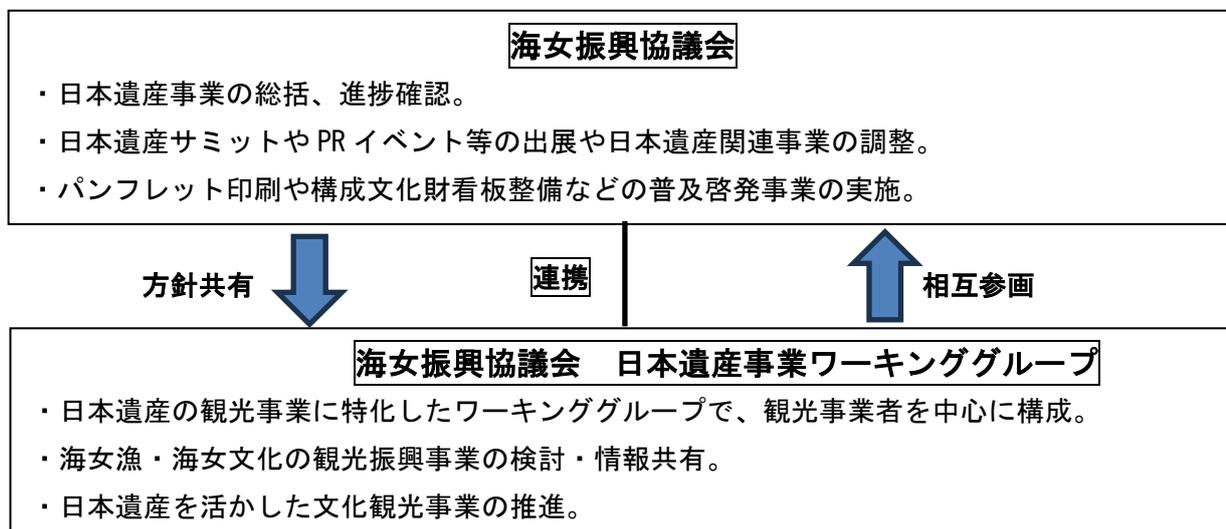
●観光及びインバウンドに関する政策は、**鳥羽市観光協会・志摩市観光協会**のほか、**鳥羽商工会議所、志摩市商工会**や**鳥羽市・志摩市**を中心に実施。

●日本遺産の海女文化の普及・啓発事業は、**両市の教育委員会**と**三重大学、東海水産科学協会**などが行う。

●海女の後継者対策や海女漁の振興は、**鳥羽市、志摩市**を中心に実施。

●情報発信強化のため、**鳥羽志摩記者クラブ**にもワーキンググループへの協力を呼びかけ、事業や情報について取り上げてもらうよう取り組む。

2025 年度以降の推進体制



海女振興協議会構成員

鳥羽市・志摩市・三重県・鳥羽磯部漁業協同組合・三重外湾漁業協同組合・鳥羽商工会議所・志摩商工会・一般社団法人鳥羽市観光協会・一般社団法人志摩市観光協会・鳥羽市立海の博物館・一般社団法人伊勢志摩国立公園協会・伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会・公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構・環境省中部地方環境事務所・三重大学・皇学館大学

日本遺産事業ワーキンググループ構成員

全体のコーディネーター 公益財団法人東海水産科学協会理事長 石原 真伊氏

観光面でのコーディネーター 伊勢志摩エコツーリズム推進協議会

【地域 DMO】

相模海女文化運営協議会、一般社団法人鳥羽市観光協会、志摩市観光協会、

一般社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構

【行政・関係団体】

鳥羽市、志摩市、鳥羽商工会議所、志摩市商工会、**里海を創る海女の会【現役海女の会】**

【その他、民間団体】

公益財団法人東海水産科学協会、一般財団法人伊勢志摩エコツーリズム推進協議会、

有限会社兵吉屋、株式会社伊勢志摩ツーリズム

【協力団体】

鳥羽志摩記者クラブ

※太字は新たに参画する団体

[人材育成・確保の方針]

・海女ガイド・海女トーク事業も引き続き実施し、現役海女の生の声を聴ける機会を提供していく。また、観光海女ではなく、本物の海女漁を身近に見学できる構成文化財「しろんご祭り」の周知に努める。

・日本遺産に認定された海女と海女文化について、引き続き小学校の郷土学習の教材として取り上げ、海女検定の実施のほか、郷土への親愛を深める海洋学習を推進する。

・三重大学とも引き続き連携し、海女の聞き取り調査を行い、古写真展等の催しを通して、日本遺産である海女の調査と海女の生き方について対外的に普及啓発に努めていく。海女の歴史民俗についての掘り下げについて意見をいただく。

アドバイザー 塚本 明 氏（三重大学人文学部）日本近世史

吉村真衣 氏（名古屋大学環境学研究科）社会学

・若手海女を中心とした「海女レンジャープロジェクト」などとも連携し、獲得だけでなく、「育てる海女」や「伝える海女」といった次世代の価値観と伝統を融合したより良い海女の仲間づくりと海女人材育成の方向性を検討する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

・海女振興協議会は、行政・漁協などからの負担金を主たる財源として活動を行っている。日本遺産の催しの出展やパンフレット等の作成などは協議会の主体で引き続き行っていくが、各構成団体で行う観光振興・海女漁振興事業は、引き続き、各団体で予算を確保して行っていく。取組みによっては、必要に応じて国や民間の補助金などの活用も検討していく。

今後、日本遺産事業を行う財源を確保し、継続的に事業を実施していくため、以下の取組を行う。

・鳥羽市では、新たな観光地の受け入れ体制の整備のため、令和8年度より、**観光振興財源（宿泊税）**を導入し、地域 DMO などと協力して、海女文化を活かした宿泊増進に向けた事業を行っていく。

- ・ダイドードリンク株式会社が設置する海女応援の自動販売機収入からの寄付金受入れを継続し、自動販売機設置台数の増設を当該事業者と検討していく。
- ・海女ブランドの認定事業の推進により、グッズ開発・販売など実績のある相差海女文化運営協議会から助言を受け、日本遺産関連商品の開発に努める。
- ・海女さん応援基金の一部を現在の稚貝放流のほかに、観光面でも活用できるか検討する。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

- ・海女漁では、漁場環境の変化に対応しつつ資源の維持・増大を図り、海女の減少に歯止めをかけることで構成文化財の保存を進める。さらに、海女文化の価値向上に向けた取り組みを進め、観光業と連携した事業を実施することで、海女だけでなく地域経済全体の活性化という好循環を創出する。
- ・石神さんや青峯山正福寺をめぐるツアーなど、現在、実施されている日本遺産の複数の構成文化財をめぐるツアーを集約したパンフ等を作成し、ツアーの周知を行っていくほか、新たなツアーの造成に努める。
- ・海女に関わる歴史的な調査を進め、三重大学海女研究センターとも連携するなど、さらなる構成文化財の掘り起こしと研究の推進を行う。
- ・民間団体が所有者である構成文化財については、その修復等にクラウドファンディングなどを活用しその保存に努めていく。
- ・構成文化財の周知を図るため、SNSを通じて個々の構成文化財を対外的にPRしていく。
- ・構成文化財の説明版の更新を進め、外国語にも対応したものに更新していく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産事業推進のための体制整備		
概要	日本遺産事業の今後の戦略について検討・共有する場を設け、地域のDMOや民間事業者と連携した推進体制を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産事業推進体制の強化	海女振興協議会内に「日本遺産ワーキンググループ」を設置する。地域DMOや民間事業者等と連携し、定期的な会議を行い、日本遺産関連の事業や各参加団体が取り組む事業の情報共有を行い、戦略の検討や事業の推進を図る。	海女振興協議会 東海水産科学協会ほか
②	「あま活セレクション」の取り組み	海女文化の維持継続に有用な商品やサービスを認定し、充実させる。「宿・飲食部門」「体験部門」「食産品部門」を設定し、選定された商品やサービスには販売促進支援を行う。	鳥羽市観光協会・志摩市観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	協議会の日本遺産事業ワーキンググループの参加団体数		—
2023			—
2024			—
2025			8
2026			13
2027			14
事業費	2025年度：0円 2026年度：0円 2027年度：0円		
継続に向けた事業設計	部会・ワーキンググループ参加団体の情報共有を目的としているため、独自の運営費用は不要である。各団体で海女関連や日本遺産関係事業を行っているため、これらの情報共有を行い、連携させていく必要がある。		

(事業番号 1-B)

事業名	日本遺産事業推進のための財源確保		
概要	持続可能な日本遺産事業を実施するための財源確保に努めていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	新たな財源確保の取り組み	日本遺産事業の事業費に充てるため、ダイードリンコ株式会社の海女振興のための自動販売機の売り上げの一部の寄付金を得る。現在5台設置しており、今後は設置数を増やしていく。	海女振興協議会
②	海女もんの売り上げ確保	「海女もん」は、鳥羽志摩地域の海女が現地で採捕した漁獲物の共通ブランドで、鳥羽志摩の海女漁業者による漁獲物、及びそれらを主な原料とする加工水産物に「海女もん」シールを貼り販売し、売上金の一部は海女漁振興に使用される。	海女振興協議会
③	協議会構成員からの負担金	協議会は、三重県・鳥羽市・志摩市・漁協からの負担金により運営されている。	海女振興協議会
④	海女さん応援基金	海女さん応援企画に賛同している鳥羽の宿泊施設が利用されると、その宿泊費の1%が協会に寄付され、海女漁の振興に使用される。	鳥羽市観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	海女さん応援基金積立額		557,054円
2023			565,892円
2024			575,725円
2025			590,000円
2026			610,000円
2027			630,000円
事業費	2025年度：0円 2026年度：0円 2027年度：0円		
継続に向けた事業設計	従来からの「海女もん」の売り上げや海女さん応援基金のほか、新たな収入先として自動販売機の売り上げの寄付金があった。今後も台数を増やしていくなど、財源確保の充実を図っていきたい。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	観光客の誘致にむけたプロモーションの検討		
概要	ターゲット層の獲得に向けた戦略の立案を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	行政計画への日本遺産の位置づけ	令和6～7年度に策定を行う、令和8年度からの「第3次鳥羽市観光基本計画」の策定、令和8年度からの「志摩市SDGs未来都市計画」の策定において、日本遺産「海女に出逢えるまち鳥羽志摩」との関連性を整理し、位置付ける。	鳥羽市・志摩市
②	インバウンドの誘致の推進	日本文化に関心の高いフランスを中心とした欧州と近年来訪者が多い香港・台湾・シンガポールなどのアジア圏へのプロモーションを行う。	鳥羽市・志摩市、鳥羽市観光協会・志摩市観光協会ほか
③	国内の観光客へのPRの実施と多くの海洋関連施設を持つ強みを生かした教育旅行の誘致	鳥羽・志摩両市には、水族館や博物館など海洋関係の施設が多く存在することから、その強みを生かし、引き続き国内観光客へのPRを行うほか、教育旅行の誘致に注力していく。	伊勢志摩観光コンベンション機構ほか
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	外国人観光入込客数		11,213人
2023			65,599人
2024			66,226人
2025			68,778人
2026			70,248人
2027			72,033人
事業費	2025年度：63,000千円 2026年度：63,000千円 2027年度：63,000千円		
継続に向けた事業設計	外国人観光客の入込数・目的・消費額等を調査・把握して今後のインバウンド対策を検討していく。		

(事業番号 2-B)

事業名	海女漁の持続性確保と海女の後継者対策		
概要	豊かな海とともに生業を営む海女と海女漁を継承していくための事業を実施していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	アワビの種苗放流	海女漁の主要漁獲物であるアワビは、資源回復を図るため、民間資金などの獲得による稚貝放流個数を増やすとともに、効果的な種苗放流手法の検討も進める。	鳥羽市・志摩市、海女ほか
②	藻場の維持・再生	海女や漁業者に加え、市・県・大学・その他関係機関が連携して、漁場環境把握のためのモニタリングを実施し、食害対策や海藻種苗の投入など、藻場の維持・再生に向けた取り組みを進める。	鳥羽市・志摩市、海女ほか
③	若手海女などのネットワークづくり、魅力発信	「海女サミット」や「里海を創る海女の会」など、海女同士の交流の場を設け、地域内外に広がるネットワークを構築するとともに、海女自らが魅力の発信者として活躍できる環境づくりを支援する。	鳥羽市・志摩市、海女
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	アワビの漁獲量		18,329 kg
2023			13,324 kg
2024			15,937 kg
2025			16,000 kg
2026			16,000 kg
2027			16,000 kg
事業費	2025年度：2,500千円 2026年度：2,500千円 2027年度：2,500千円		
継続に向けた事業設計	種苗放流や藻場再生などの取り組みにより、アワビの漁獲量を維持し、海女の収入確保につなげる。また、サザエなどの他種の種苗放流も行い、資源の安定化を図る。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産事業に関わる観光事業者への普及啓発事業		
概要	日本遺産に関わる観光事業者への普及・啓発を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光事業者関係者向け研修会の開催	観光事業者関係者を中心に日本遺産ストーリーについての理解向上のため、研修会を実施する。	海女振興協議会
②	海女ガイドの育成	現在、団体向けに実施している鳥羽市立海の博物館での海女ガイドや鳥羽市観光協会が実施する「海女トーク」の実施を引き続き行っていき、海女の観光面での活躍を支援していく。	鳥羽市観光協会・鳥羽市
③	海女小屋体験・海女漁体験などによる海女の所得向上	観光事業者への普及啓発、各PRにより、海女小屋体験や海女漁体験などの参加者が増加することで、従事する海女の所得向上につなげる。	事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	海女ガイド事業と海女トークの実績		21回
2023			17回
2024			10回
2025			12回
2026			14回
2027			16回
事業費	2025年度：330千円 2026年度：330千円 2027年度：330千円		
継続に向けた事業設計	修学旅行の件数が以前より減少傾向にあるため、実施回数が減っているが、現役海女の生の声を聞くことができる事業の一つでもあり、今後も両事業とも継続していく予定である。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	情報発信の強化と情報発信拠点施設の博物館の環境整備		
概要	来訪者が日本遺産ストーリーを学ぶうえで、重要となる施設等の環境整備。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	海の博物館環境整備	日本遺産に認定された海女文化を発信する鳥羽市立海の博物館の施設の整備や電子決済等の環境整備など、来訪者の利便性の向上のためのハード面の整備を行う。	鳥羽市
②	日本遺産構成文化財の現地案内看板の整備	日本遺産の構成文化財の外国語表記を加えるなど案内看板の再整備を行い、来訪者の利便性の向上を目指す。	海女振興協議会
③	「あま活セレクション」の取り組み	「あま活」サイトにて、日本遺産海女のストーリー紹介と関連商品集約を行い、日本遺産海女の総合的なサイトを目指す。	鳥羽市観光協会、志摩市観光協会
④	日本遺産情報の発信の強化	SNSを活用し、「海女に出逢えるまち鳥羽・志摩」の構成文化財のPRを進めていく。	海女振興協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	鳥羽市立海の博物館の入館者数		26,056人
2023			23,910人
2024			27,367人
2025			30,200人
2026			31,800人
2027			33,400人
事業費	2025年度：45,813千円 2026年度：8,500千円 2027年度：10,861千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産海女について紹介している展示施設であり、今後もトイレの整備や照明設備の修理などを行い、来訪者の利便性を高めていくとともに、構成文化財の案内看板も古いものは順次更新していく予定である。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産関連商品の販売の推進		
概要	日本遺産のストーリーを体感できる商品の販売と関連		
	取組名	取組内容	実施主体
①	海女に出逢えるコンテンツと海女文化を体感するツアー等の販売	海女小屋体験施設や海女漁体験のツアーをブラッシュアップしながら継続して販売するほか、海女に出逢えるコンテンツを集約したパンフレットを作成し、より周知に努める。	鳥羽商工会議所(相差海女文化運営協議会)ほか
②	海女文化の関連商品の認定制度の推進	「あま活セレクション」により日本遺産海女に関連した商品やサービスの認定を行い、コンテンツを充実させていく。	鳥羽市観光協会、志摩市観光協会
③	海女の採った海藻を「あまもん」として販売	海女の採った海藻を「海女もん」として販売し、売り上げの一部は海女漁の振興に充てられる。	海女振興協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	あま活セレクションに参加している業者数・認定商品数		-
2023			-
2024			6団体・6商品
2025			7団体・7商品
2026			8団体・8商品
2027			10団体10商品
事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円		
継続に向けた事業設計	現在、実施されている海女小屋体験や海女漁体験は概ね観光客に好評である。引き続き継続していくとともに、コンテンツを充実させて集客増を目指していく。また、海女関連商品もブランド化を進め、商品数を増やしていく。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校教育と連携した普及啓発		
概要	学校教育と連携した普及啓発に取り組み、日本遺産への理解度の向上と郷土愛の醸成を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	郷土学習としての海女と海女文化の学習	市内の小学生が海女文化について学び、海女検定を受験、全員合格を目指すとともに、日本遺産への認知度を高める。	鳥羽市
②	郷土学習としての海女と海女文化の学習	市内の小学生が海女文化について学び、海女ならびに日本遺産への理解を深めるため、資料館での学習を行う。	志摩市
③	小学生ガイドの育成	地元の子どもが自分の住む島を案内する離島地区で行っている「島っこガイド」の取り組みを引き続き実施していく。	鳥羽市ほか
④	三重大学との連携した講座・展覧会の実施	三重大学の海女研究センターと連携し、市民・県民を対象にした講座・展覧会を開催し、海女文化に対する啓発を行う。	鳥羽市・志摩市・三重大学
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	海女検定の合格率		100%
2023			100%
2024			100%
2025			100%
2026			100%
2027			100%
事業費	2025年度：100千円 2026年度：100千円 2027年度：100千円		
継続に向けた事業設計	小学生を対象とした検定や、島っこガイドなどの取り組みにより、次世代のプレイヤー育成を目指す事業を引き続き行っていく。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名		インバウンド誘客の推進	
概要		海外にむけたプロモーションを強化し、外国人観光客の増加を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	インバウンド関連の商談会、展示会での発信	伊勢志摩地域の自治体と連携し、日本文化に関心の高いフランスにトップセールスを行うほか、近年来訪者が多い香港・台湾・シンガポールなどのアジア圏へのプロモーションを行う。商談会へ参加して営業活動を行う。	鳥羽市観光協会・志摩市観光協会、鳥羽市・志摩市など
②	クルーズ船の誘致	大型クルーズ船の鳥羽港への寄港に際し、港での受入対応の充実・強化に取り組み、乗船客や乗組員の満足度向上を図るとともに、乗船客を伊勢志摩地域の各地へと誘客することで地域の消費拡大に繋げることを目指す。	鳥羽市、鳥羽市観光協会
③	受入れ体制の推進	インバウンドの受け入れのため、構成文化財の説明版の英語表記への改訂や日本遺産「海女に出逢えるまち鳥羽志摩」のパンフレットの外国語版の充実に努める。	海女振興協議会、鳥羽市観光協会・志摩市観光協会、鳥羽市・志摩市など
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	鳥羽市・志摩市の外国人宿泊者数		11,213人
2023			65,599人
2024			61,507人
2025			63,965人
2026			65,338人
2027			67,025人
事業費	2025年度：63,000千円 2026年度：63,000千円 2027年度：63,000千円		
継続に向けた事業設計	外国人観光客の動向調査により来訪国別・入込数・目的・消費額等を把握し、今後の戦略を検討する。		